

k o k y o s o t s u s h i n

**高教組通信 No.5**2012年11月7日  
兵庫高教組書記局URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : [honbu@hyogo-kokyoso.com](mailto:honbu@hyogo-kokyoso.com)**本当に学区拡大してよいのか(3)****学区拡大による危険な多様化・特色化****エリート養成校、非正規労働者養成校等に高校を類型化**

現在、中央教育審議会の初等中等教育部会の高等学校教育部会(以下、部会)において新たな高校像をめぐって活発な論議が行われています。議事録からは「激論」が交わされている様子が見えます。その焦点は、国が必要とする人材像を示し、その人材養成のために高校を類型化し、その教育内容をも定める方向に舵を切るかどうかにあります。兵庫における学区拡大は、この高校類型化と無関係ではありません。

**目指されている高校類型化の姿とは**

高校の類型化案は、中教審第7回部会(4月16日)において「課題整理と検討の視点(案)」の「今後の施策の方向性」の中で示されました。具体的には、高校を5類型化するというもので以下の通り記述されていました。

社会経済活動の基盤を担う人材に必要な資質・能力の育成を目指す学校

専門的職業人に必要な資質・能力の育成を目指す学校

社会におけるリーダー層やグローバル社会において国際的に活躍できる人材に必要な資質・能力の育成を目指す学校

芸術・スポーツ等の特別な才能を伸ばすことを目指す学校

自立して社会生活・職業生活を営むための基礎的な能力の育成を目指す学校

**第8回部会で示された具体的な「振興方策(例)」**

第8回部会(5月18日)ではさらに「振興方策(例)」が追加されます。先述の6類型の中から対照的な2類型についてその具体的内容を見ましょう。

社会におけるリーダー層やグローバル社会において国際的に活躍できる人材に必要な資質・能力の育成を目指す学校

【振興方策(例)：一部略】 \* 意欲と能力ある生徒に対して、大学等の協力により高度な内容の授業を受ける機会を提供するとともに、そこでの学習の成果を適切に評価するなど、高大連携の推進。 \* 優れた才能や個性を有する生徒に対する学校外活動の単位認定制度の拡大。(例) 国際科学オリンピックや科学の甲子園等における活動、国際バカロレア認定校における学修。 \* 高等学校段階において、厳格な成績評価の下で通常の生徒よりも多くの単位を優れた成績で修得した者について、早期の卒業を認める制度の創設。 \* 国際バカロレアの趣

旨を活かした指導方法等の検討。

自立して社会生活・職業生活を営むための基礎的な能力の育成を目指す学校

【振興方策(例)：一部略】 \* コアとなる内容により重点を置き、その内容を確実に身に付けさせる取組の充実。 \* 個々の生徒の状況に応じた生徒指導を行うための教員の資質向上やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の専門スタッフの充実。 \* 不登校の生徒を積極的に受け入れる学校の配置の促進。 \* 多様な入学動機・学習歴を持つ生徒に対して、多様な形態の履修を提供している定時制・通信制課程の意義・役割の評価とそれにふさわしい教育環境の整備・充実。 \* 特別支援教育支援員等の専門スタッフの充実。 \* 発達障害に関する教職員に対する研修の充実。

**激論の末、第9回で表現が修正される**

このような高校の類型化には部会内で文字通り激論が交わされた結果、第9回部会(6月18日)で「例えば、以下のような資質・能力をはぐくむことが求められている」との一文を付けたうえで以下の文章に落ち着きました。

社会経済活動の基盤を担うために必要な資質・能力の育成

専門的職業人に必要な資質・能力の育成

社会においてリーダーシップを発揮し、また、グローバル社会において国際的に活躍するために必要な資質・能力の育成

芸術・スポーツ等の特別な才能の育成

自立して社会生活・職業生活を営むための基礎的な資質・能力の育成

上記の資質・能力を示したうえで「そのための施策の実施にあたっては、高等学校として共通に基盤となる教育条件や教育環境を整備した上で、各学校が目標とする人間像に応じて、それぞれをより効果的に実現できるよう支援する観点から、国や地方公共団体が施策を講じることがより効果的である。」との文章が付記されたのです。

**財界の人材養成政策に沿った高校の類型化方針**

中央教育審議会ではこれほど意見の対立が表面化したことはありませんでした。しかし、原案があまりにも露骨に財界の人材養成政策を取り入れたひどい内容だったため、さすがに意見の対立が生じたのでしょう。しかし、反対意見も基本的には「オブラートに包み飲みやすくしろ」との意見であり、表現は変わりましたが政策の本質は変わっていません。

文科省はいよいよ多様化・特色化政策が目指す高校像を次のように露骨に示してきたのです。

ノンエリート正規労働者養成高校 = 社会経済活動の基盤を担う人材

低中級技術者養成高校 = 専門的職業人に必要な資質・能力の育成

エリート養成高校 = 社会におけるリーダー層やグローバル社会において国際的に活躍できる人材

芸術・スポーツ専門高校 = 芸術・スポーツ等の特別な才能を伸ばす

非正規労働者養成高校 = 自立して社会生活・職業生活を営むための基礎的な能力

兵庫においては学区拡大は高校の特色化と一体のものとして進められてきました。そして、県民の中には「高校の特色化は必要」との声もあります。しかし、学区拡大の後に準備されている高校の特色化の狙いとその危険な本質を私たちはしっかり見ておく必要があるといえます。